

推薦する取り組み

園館名

チュウサギのための水流給餌水槽

飯田市立動物園

推薦理由

飯田市立動物園では、バードホールという施設に他の鳥類と共にチュウサギを1羽飼育している。本来、サギの間は、干潟や田んぼなどの水辺で生きた小魚や虫などを捕食するが、それらの生き物が水中や地中に潜んでいる間は、その近くで待ち伏せし、出てきたところを嘴で素早く捕まえるという採食行動を取ることがある。

しかし、これまで当園では、生餌の導入が難しく、冷凍アジを解凍したものを主食として与えていたため、チュウサギの待ち伏せをして獲物を狙って捕食するといった行動がほとんど見られなかった。また、決められた時間に給餌されるため、それを食べ切ってしまうと、それ以外の時間を採食行動に費やすことが少なかった。

そこで、チュウサギの「待ち伏せ」といった本来の採食行動を引き出すとともに、日々不規則な時間に給餌することで、チュウサギにとって良い刺激となるように、「水流給餌水槽」を導入した。

この水槽は、水族館のクラゲの展示水槽をヒントに、水槽の中を波板で区切り、底面にポンプを設置し、水を張った状態で底にアジを沈めておき、ポンプが稼働すると水流が起こり、その水流によってアジが水面まで浮かび上がる構造にした。また、タイマーを使用することで、日々異なった時間にポンプを稼働させることができるようにした。

この水槽を使用することで、水流の不規則さやアジの大きさの違いによって、その日その日でエサの取りやすさが異なるため、チュウサギは待ち伏せや捕食失敗をしながら採食するようになり、1日のうちの採食に費やす時間が明らかに多くなった。そして、日によって給餌時間を変更できるため、突然起こる水流に合わせたチュウサギが水槽に向かって来て、採食するようになった。また水槽とチュウサギの採食行動についての掲示物を来園者の見やすい場所に設置したため、エンリッチメントについて来園者に伝えやすくなった。



チュウサギ(待ち伏せ)



チュウサギ(捕食)



水槽



掲示板